



Annual Report **2020**

東京女子医科大学

令和2(2020)年度 女性医療人キャリア形成センター報告書

ごあいさつ



学校法人 東京女子医科大学
理事長 岩本 絹子

平素より本学の活動にご理解ご協力いただきまして、誠にありがとうございます。深く御礼申し上げます。また、令和2年(2020)3月頃から国内での感染拡大が始まった新型コロナウイルス感染症は、未だに収束しておらず、現在もなお大変厳しい困難な状況が続いております。新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた皆様方に謹んで哀悼の意を表するとともに、現在も罹患されておられる皆様方のご回復をお祈りし、心より御見舞申し上げます。そして、長く続くコロナ禍の中、医療の最前線でご尽力されておられる医療従事者・関係各位の皆様方に心より敬意を表し、深く感謝申し上げます。一日も早くこの事態が収束することを心より願っております。

さて、この度、令和2(2020)年度「女性医療人キャリア形成センター報告書」が完成いたしました。ぜひご一読いただき、本学の活動へのご理解をより一層深めていただき、今後とも変わらぬご指導ならびにご支援ご協力の程何卒よろしくお願い申し上げます。

本学は、建学の精神「医学の蘊奥(うんおう)を究め兼ねて人格を陶冶し社会に貢献する女性医人を育成する。」と理念「至誠と愛」のもと、女性医療人を育成し続けておりますが、女性活躍推進法が成立した現代においては、リーダー的役割を担う人材の輩出が望まれております。本学では令和3(2021)年3月10日に、本学の学祖 吉岡彌生先生の生誕150周年を迎え、この記念すべき年に、全学部の教授全体に占める女性教授の割合は30.1%になりました。本学の果たす役割は非常に大きく、より一層重要な存在となっております。本学の卒業教育における人材育成の拠点である女性医療人キャリア形成センターにおいては、①ダイバーシティ研究環境整備、②研究力向上・リーダー育成、③上位職への積極的登用に取り組んでおり、本学における本事業の成果がより一層実り多いものとなり、女性医療人が生涯を通じて活躍し続けることができる環境が社会全体で整備されることを祈念いたします。



東京女子医科大学
学長 丸 義朗

本学教職員が各部門で参加する本事業は継続して成果をあげている。これは本学教職員が女性医療人の運営に関心を持ち、また価値あるものとして認識し、その分担に尽力している表れです。建学の精神にある「社会貢献できる質の高い女性医人の育成」こそが学祖吉岡彌生先生から継承されてきた本学の礎である以上、本事業は必要不可欠な取り組みです。コロナ禍の影響を受けた年でしたが、臨機応変にきめ細かい対応策を講じ、事業の継続性を何より重視している。事業の方法論や成果が、他大学にも波及し、女性医療人育成の手本となることを祈念する。

センター長あいさつ



女性医療人キャリア形成センター
センター長
肥塚 直美

常務理事

学校法人東京女子医科大学は創立者吉岡彌生先生によって女子の医育機関として明治33年(1900年)に設立されました。本学の建学の精神は「医学の蘊奥を究め兼ねて人格を陶冶し、社会に活躍する女性医人を育成する」であり、本学の理念は「至誠と愛」です。この建学の精神と理念に則り、高い知識・技能と病者を癒す心を持った医師・看護師の育成を通じて、精神的・経済的に自立し、社会に貢献する女性医療人を育成し、広く地域社会の発展に貢献してきました。本学は文部科学省平成28年度科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)に採択され、より一層、女性医療人の(1)ダイバーシティ研究環境整備(勤務環境改善、育児支援、介護支援)、(2)研究力向上・リーダー育成、(3)上位職への登用に向けて女性医療人キャリア形成センターを中心に取り組みを進め、成果を上げております。本センターには「女性医師・研究者支援部門」、「女性医師再研修部門」、「看護職キャリア開発支援部門」、「女性医療人リーダー育成部門」のプロジェクト部門とこれら部門と有機的に連携する「ダイバーシティ環境整備事業推進室」を設置し多面的に活動しております。今後も勤務継続支援に加え、キャリア形成を通じてリーダーとなる人材を育成し、女性医療人が生涯輝いて活躍できる社会を目指して活動してまいります。皆様のご理解、ご協力のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

副センター長あいさつ



女性医療人キャリア形成センター
副センター長
斎藤 加代子

遺伝子医療センター
ゲノム診療科 特任教授

「女性医療人キャリア形成センター」における1年を振り返りまして、COVID-19による活動の制限の影響が大きかったと思います。様々な事業が対面では困難になり、WEB開催となりました。しかし一方では、学会参加は現地に行かず、WEB参加でオンデマンドになったことで、子育て中または親の介護中の女性医療人にとって、COVID-19前より参加できるようになった、医師においては専門医の点数がとりやすくなった、などの意見も聞かれます。災いを福となす姿勢も女性医療人にとって必要なことであります。

さて、文部科学省人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)」の事業は着実に進捗し、5年目を終了し最終年度を迎えます。事業の申請時に、2020年に女性教授の割合を30%とするという202030の数値目標を掲げました。審査員からは「とんでもない」という空気を感じました。そして、2021年3月31日に、女性教授の割合41/136(30.1%)を達成いたしました！女性医療人キャリア形成センターの委員の皆様、下村裕見子課長付はじめ事務の皆様に感謝申し上げます。

全ての女性医師、看護師、研究者を対象としてファミリーサポートなどの子育て支援、介護支援とともに、女性医療人の研究力の向上、リーダー育成、勤務環境整備など、個々の状況に対応したきめ細かい支援事業を発展させていくことが必要です。東京女子医科大学における女性医療人のさらなる活躍を推進するために、皆様の温かいご支援をお願い申し上げます。

部門長あいさつ

ダイバーシティ
環境整備事業推進室
室長

本多 祥子

解剖学講座
神経分子形態学分野
准教授



2018年4月より前任の野原理子先生を引き継いでダイバーシティ環境整備事業推進室長を担当させていただいております。長年女子医大で基礎医学研究や教育に関わらせていただき、また自分自身も介護の苦労を経験した立場から、女性医療人の皆様が本学で常に楽しく快適に御自身の夢を追求し、それを形にできるよう、微力ながらお手伝いをさせていただきたいと考えております。推進室では特に勤務環境改善のプロジェクトを担当しておりますので、研究・教育や臨床の現場でがんばっておられる皆様のご意見やお力添えが何より大切と存じます。これからもどうぞ宜しくお願い申し上げます。

女性医療人
リーダー育成部門
部門長

内田 啓子

内科学講座
腎臓内科学分野
教授



「女性医療人リーダー育成部門」と旧彌生塾から名称変更し、新スタートした矢先のコロナ禍で、予定していた行事のスタートが遅れてしまいました。皆様も大変な日々を送られていると思う一方で、「歩みは止めない!!」を合い言葉にできることをやった1年でした。大きな収穫はWEBやオンデマンドを駆使した行事を増やし、コロナ禍でも出席していただけたこと、コロナ禍でもこの活動のニーズがあることを確認できたことです。当初は試行錯誤でしたが、次第に事務局も参加者も慣れ、今年度もポリシーを皆さんで遵守した上でWEBを多用しつつも対面での行事も模索しながら、新年度もキャリアアップを目指して努力される皆様に支援していきたいと思っております。

女性医師・研究者支援部門
部門長

佐藤 麻子

臨床検査科 教授



女性医師・研究者支援部門では、子育て支援、研究支援員制度、女子中高生の理系進路選択支援を行っております。子育て支援では、院内保育、病児保育の事業支援とともに「女子医大・東京医大ファミリーサポート」、またサポーター対象の「子育て支援セミナー」を実施し、きめ細やかな支援を可能としています。研究支援員制度では、女性医師・研究者へ支援員を配置することで研究の遂行を支援しています。また、女子中高生を対象とし、理系進路の紹介、実際働いている女性の体験談など理系進路選択のための支援を行っています。今後も、皆様からのなご一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

女性医師再研修部門
部門長

石黒 直子

医学部長
皮膚科学講座
皮膚科学分野
教授・基幹分野長



本部門では、女性医師が種々の理由で離職された後の復職にあたりキャリアカウンセリングを行っております。出身大学に関わらず、臨床経験や現在の個人の状況などを把握するためのヒヤリングの場を設け、ご相談者の方向性を検討し、個々に合った研修や実習などをご提案し、復職支援を行ってきました。女性医師が20%を越えるようになった現在も、出産・育児などを契機に離職し、その能力を埋もれさせている方が多くおられます。本部門のキャリアカウンセリングをご活用いただき、復職をご検討され、社会貢献にもつながっていただけますよう橋渡しができればと考えております。なお、現在のコロナ禍においては、リモートでのカウンセリングを主体に行っておりますことを申し添えます。

看護職
キャリア開発支援部門
部門長

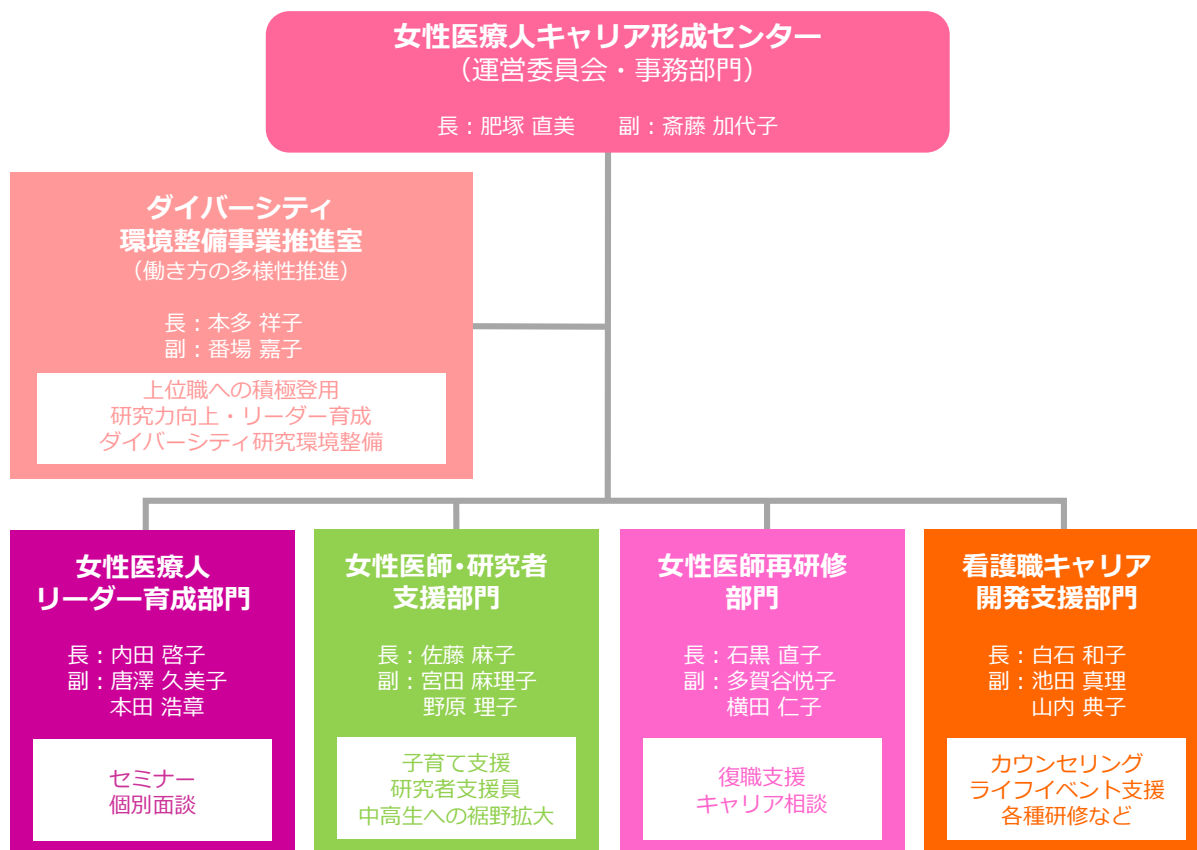
白石 和子

東京女子医科大学病院
看護部長



本部門は2009年4月の設立から今年で13年目を迎えました。2016年からは「認定看護管理者教育課程ファーストレベル」をスタートし、将来の看護管理者を育てる研修として外部からの受講生も受け入れています。さらに2019年度より「看護研究推進」が5つ目のプロジェクトとして誕生して、臨床現場で働く看護職の研究的な取組みを支援することができるようになりました。また、昨年度から臨床コーチ研修を再開し、第7期生が無事に修了することができました。このように、看護職キャリア開発支援部門の活動は、教育部門と臨床部門の看護職が協働しながら生涯にわたるキャリア教育を軌道に乗せつつ進化しています。皆さまが自分らしくキャリアを積んで行かれませう、看護職キャリア開発支援部門として応援していきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

女性医療人キャリア形成センター組織図(2021年4月現在)



女性医療人キャリア形成センター運営委員(2021年4月現在) ※順不同、敬称略

職 位	氏 名
女性医療人キャリア形成センター長	肥塚 直美
女性医療人キャリア形成センター副センター長	斎藤 加代子
女性医療人リーダー育成部門長	内田 啓子
女性医師・研究者支援部門長	佐藤 麻子
女性医師再研修部門長、医学部長	石黒 直子
看護職キャリア開発支援部門長 東京女子医科大学病院 看護部長	白石 和子
ダイバーシティ環境整備事業推進室長	本多 祥子
医療部門担当理事	田邊 一成
教育部門担当理事	丸 義朗
東京女子医科大学病院 診療部門担当副院長	新浪 博
看護学部長	小川 久貴子
経営統括部長	山崎 武夫

各部門運営委員(2021年4月現在) ※順不同、敬称略

女性医療人リーダー育成部門

	職 位	氏 名
部門長	内科学講座 腎臓内科学分野 教授	内田 啓子
副部門長	放射線医学講座 放射線腫瘍学分野 教授・基幹分野長	唐澤 久美子
副部門長	実験動物研究所 教授	本田 浩章
委員	女性医療人キャリア形成センター 副センター長	斎藤加代子
委員	女性医師・研究者支援部門長	佐藤 麻子
委員	女性医師再研修部門長	石黒 直子
委員	看護職キャリア開発支援部門長	白石 和子
委員	東医療センター 麻酔科 教授	小森万希子
委員	東医療センター 眼科 教授	須藤 史子
委員	麻酔科学講座 麻酔科学分野 教授・基幹分野長	長坂 安子
委員	微生物学免疫学講座 微生物学免疫学分野 教授・基幹分野長	柳澤 直子
委員	解剖学講座 顕微解剖学・形態形成学分野 教授・基幹分野長	石津 綾子
委員	女性医療人キャリア形成センター 課長付	下村裕見子

女性医師再研修部門

	職 位	氏 名
部門長	皮膚科学講座 皮膚科学分野 教授・基幹分野長	石黒 直子
副部門長	内科学講座 呼吸器内科学分野 教授・基幹分野長	多賀谷悦子
副部門長	学生健康管理室 准教授	横田 仁子
委員	成人医学センター所長・教授	岩崎 直子
委員	小児科学講座 小児科学分野 臨床教授	平澤 恭子
委員	東医療センター耳鼻咽喉科 准教授	余田 敬子
委員	眼科学講座 眼科学分野 准教授	篠崎 和美
委員	成人医学センター 講師	松村美由起
委員	八千代医療センター 乳腺・内分泌外科 講師	地曳 典恵
委員	産婦人科学講座 産婦人科学分野 講師	秋澤 叔香
委員	皮膚科学講座 皮膚科学分野 講師	福屋 泰子
委員	女性医療人キャリア形成センター 課長付	下村裕見子

女性医師・研究者支援部門

	職 位	氏 名
部門長	臨床検査科 教授	佐藤 麻子
副部門長	生理学講座 神経生理学分野教授・基幹分野長	宮田 麻理子
副部門長	衛生学公衆衛生学講座 公衆衛生学分野 教授・基幹分野長	野原 理子
委員	生理学講座 分子細胞生理学分野 教授・基幹分野長	三谷 昌平
委員	小児科学講座 小児科学分野 教授・基幹分野長	永田 智
委員	内科学講座 腎臓内科学分野 教授	内田 啓子
委員	予防医学科 教授	村崎 かがり
委員	東医療センター内科 教授	小川 哲也
委員	解剖学講座 神経分子形態学分野 准教授	本多 祥子
委員	外科学講座 内分泌・小児外科学分野 講師	堀内 喜代美
委員	統合教育学修センター 基礎教育学(日本語) 講師	辻村 貴子
委員	統合教育学修センター 基礎科学(化学) 講師	佐藤 梓
委員	経営統括部 人事課 課長補佐	小谷 浩平
委員	女性医療人キャリア形成センター 課長付	下村 裕見子

看護職キャリア開発支援部門

	職 位	氏 名
部門長	看護部 看護部長	白石 和子
副部門長	看護学部 看護管理学 教授	池田 真理
副部門長	八千代医療センター 看護部	山内 典子
委員	看護部 副部長	出口香緒利
委員	看護部 副部長	内田 朋子
委員	看護部 副部長代行	佐藤美由紀
委員	看護部 看護師	渡邊 直美
委員	東医療センター看護部 副部長	坂田 裕子
委員	東医療センター看護部 師長	大井香奈美
委員	東医療センター看護部 師長	江畑 典子
委員	八千代医療センター看護部 師長	三好麻実子
委員	八千代医療センター看護部 師長	高 綾子
委員	八千代医療センター看護部 看護師	近藤 直子
委員	看護学部 看護職生涯発達学 講師	吉田 千鶴
委員	看護学部 精神看護学 助教 リエゾン精神看護専門看護師	異儀田はづき
委員	看護学部 成人看護学 助教	峯川美弥子
委員	看護専門学校 主事	坂本 倫美
委員	経営統括部 部長	山崎 武夫
委員	女性医療人キャリア形成センター 課長付	下村裕見子

女性医療人リーダー育成部門



女性医療人リーダー育成部門は
本学の女性教員および卒業生を対象として
リーダーシップ育成・促進のための取組を行います。

東京女子医科大学の創立者である吉岡彌生先生の精神を受け継ぎ、社会のリーダーとしてよりよい社会を作るために活動することを目指す女性医療人のための部門です。

令和2(2020)年度実績

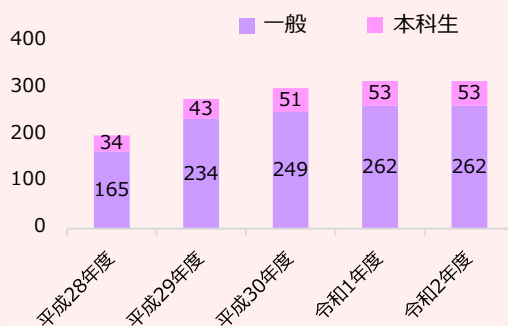
昇進・昇格 (11名)

教授	3名
准教授	4名
講師	3名
准講師	1名

女性医療人リーダー育成部門からの教授昇格状況

平成29(2017)年度／教授**1**名、特命担当教授**2**名
平成30(2018)年度／教授**8**名、特命担当教授**1**名
令和1(2019)年度／教授**4**名、特命担当教授**1**名
令和2(2020)年度／教授**3**名

登録者数



学内登録者状況

職位	在籍者数			学内女性医師登録状況		
	全体	女性	割合(女性)	女性医師数	登録女性医師数	割合
准教授	121	26	21.5%	26	21	80.8%
講師	142	43	30.3%	43	31	72.1%
准講師	72	26	36.1%	26	15	57.7%
准講師以上計	335	95	28.4%	95	67	70.5%
助教	905	394	43.5%	394	28	7.1%
合計	1240	489	39.4%	489	95	19.4%

個別面談実施

部門長・副部門長による個別面談を
本科生 35名に実施
(学内本科生面談実施率 81%)



内田 啓子 部門長
(内科学講座 腎臓内科学分野 教授)



唐澤 久美子 副部門長
(放射線医学講座 放射線腫瘍学分野 教授・基幹分野長)



本田 浩章 副部門長
(実験動物研究所 所長・教授)

女性医療人リーダー育成部門

英語セミナー

4/6	英語セミナー (オンライン)	論文の執筆からジャーナル投稿	カクタス・コミュニケーションズ*
11/16	英語セミナー (オンライン・後日視聴可)	研究論文の執筆と修正 バイオメディカル研究論文の構造 サイエンス テクニカルライティングの文章構造	David先生 (カクタス)
2/3	英語セミナー (オンライン)	英語プレゼンのためのワークショップ	長坂 安子先生 柳澤 直子先生 石津 綾子先生
		校正費用半額補助	カクタス・コミュニケーションズ*



【講師】 David Kipler氏
カクタス・コミュニケーションズ(株)

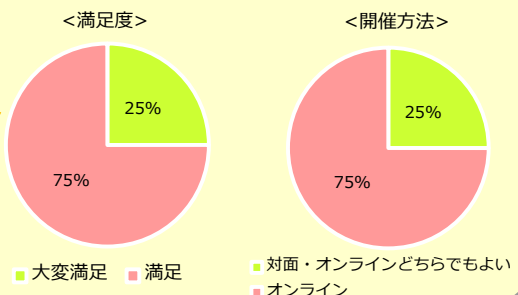
～11/16 英語セミナー 参加者アンケートより～

- ・動詞の使い方やこのような言い回しはしないなど具体的例を挙げていただき実用的であった。
- ・具体的な書き方を学ぶことができた。DVDの方が英語が得意でない人は巻き戻し見返すことができるので有意義だと思う。
- ・英語論文を作成するには、まず対象と方法をしっかり見据えて、背景や考察で、肉付けをしていくことが大切であると感じました。
- ・簡潔な文章の構成が良いことがよくわかった。
- ・具体的な添削例を示していただいたので、ネイティブの方の考え方がわかり参考になりました。

～2/3 英語プレゼンのためのワークショップ
参加者アンケートより～

- ・実際にプレゼンを披露してくださり、それに対してコメントを言うというのが実践的でよかった。
- ・詳細にコメントくださり、大変勉強になりました。
- ・大変緊張しましたが、勉強になりました。
- ・オンラインだと遠方の人も参加しやすいと思います。

英語プレゼンのためのワークショップ
事後アンケートより



女性医療人リーダー育成部門

ピアラーニング

※「ピアラーニング」とは…

各科の教授から直接キャリア形成過程の体験談を聞き、その場で質疑応答できる貴重な場です。自由にキャリア形成などについて話し合い、参加者は多数の良好事例を学ぶことができます。

10/30	第14回ピアラーニング	長坂 安子先生	麻酔科学講座 麻酔科学分野 教授・基幹分野長
-------	-------------	---------	---------------------------



女性医師として
生涯現役を貫く
ということ

～10/30 長坂 安子先生 ピア アンケートより～

- ・臨床と研究のバランス、医師として重要なことを分かりやすく教えて頂きました。
- ・困難にぶつかっても、あきらめない、ということ。
- ・プレゼンテーションでは、視覚に訴える、数字を提示する。
- ・多くの人の助けをかりる。コミュニケーションを良好にとる。
- ・やりたいことはやるという気持ちを持っていれば道はひらける。
- ・自分でなくてもできる仕事には人にまかせる優先順位を決めて実行していく。
- ・吉岡彌生先生のいろんな言葉を知る事ができた。

研究力向上セミナー

8/24	研究力向上セミナー①	科学研究費申請説明会DVD	本田 浩章先生 (実験動物研究所 所長・教授)
12/11	研究力向上セミナー②	臨床研究初学者のための統計の基本 ～医療系データの分析入門～DVD	福島 教照先生 (東京医科大学 公衆衛生学分野 講師)

審査員から見た
採択したい科研費申請書の書き方

実験動物研究所
本田浩章

～本田 浩章先生セミナー 視聴アンケートより～

- ・従来の科研費の説明会よりも、評価する側からの申請獲得について簡潔かつ具体的なアドバイスが満載しており大変参考になった。
- ・科研費についてのセミナーで今までで一番勉強になりました。

～福島 教照先生セミナー 視聴アンケートより～

- ・どの統計方法を使用したらよいか図になっていたのが分かりやすかった。
- ・統計のフローチャートがわかりやすく印象に残りました。
- ・分散分析について整理ができた。

研究力向上セミナー

オンライン収録版

臨床研究初学者のための統計の基本
～医療系データの分析入門編～

東京医科大学 公衆衛生学分野
福島教照

女性医療人リーダー育成部門

キャリアセミナー・リーダーシップセミナー

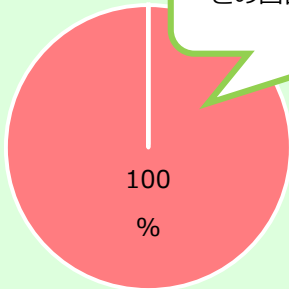
12/23	リーダーシップセミナー +看護職キャリア開発支援部門共催	コロナ禍におけるコミュニケーションのあり方 ～上司と部下とのコミュニケーションスキル～	八木 亜紀子先生 (福島県立医科大学 放射線医学 県民健康管理センター 特任准教授)
-------	---------------------------------	--	--



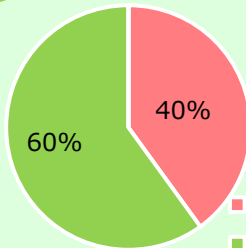
～12/23 リーダーシップセミナー 参加者アンケートより～

- ・今回学んだことを意識しながらコミュニケーションをとりたいと感じました。
- ・明日からすぐに心がけようと前向きに思えた気持ちで終わることができました。
- ・不安な思いや漠然とした気持ちをこのような研修で言葉で聞くことができ気持ちの整理が少し着きました。
- ・自分の傾向も客観的に考えられる機会になりました。
- ・まさに普段意識している内容で参考になった。
- ・コロナ禍にかかわらず基本的に大事なコミュニケーションのあり方、技法について学ぶことができた。

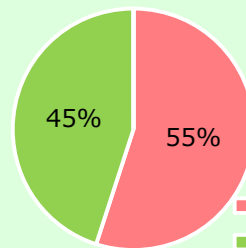
★セミナー内容が「期待に沿っていた」との回答が**100%**



「リスクコミュニケーションの6つのポイント」「管理職に求められるコミュニケーション」「リスクコミュニケーションの4つのフェーズ」



■ とても興味深い
■ 興味深い



■ 良く理解できた
■ 理解できた



女性医師・研究者支援部門



多くの指導的立場となる優れた女性医師・研究者を育成し、価値ある業績を積み重ね、将来の日本の医療に貢献することを目指して、「女性医師・研究者支援部門」を設立いたしました。子育てなどのライフイベントと診療・教育・研究を両立し、キャリア形成を継続できる環境を整備します。

女性医師研究者支援シンポジウム

6月13日(土)に開催を予定していた「女性医師・研究者支援シンポジウム2020」は Covid-19感染拡大防止のためビデオ録画に変更となりました。

《プログラム》

【挨拶】

岩本 絹子 理事長
丸 義朗 学長

【開会の挨拶】

肥塚 直美 常務理事〔女性医療人キャリア形成センター長〕

【東京女子医科大学の女性医師研究者支援】

佐藤 麻子 教授〔女性医師・研究者支援部門長、臨床検査科〕

【女性医師研究者研究発表会】2019年度「研究支援員制度」利用者による研究報告

座長：柴田 亮行 教授・講座主任〔病理学(病態神経科学分野)〕

演者：新井田 素子 講師〔病理学(病態神経科学分野)〕

座長：萩原 将太郎 講師〔血液内科学〕

演者：田中 紀奈 助教〔血液内科学〕

【ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業「勤務環境改善プロジェクト」報告】

座長：本多 祥子 准教授〔ダイバーシティ環境整備事業推進室長、解剖学〕

演者：福屋 泰子 講師〔皮膚科学〕

【閉会の挨拶】

石黒 直子 医学部長



※画像は2019年撮影

女性医師・研究者支援部門

研究支援員制度

本制度は妊娠・出産・育児・介護等のライフ・イベントにより研究活動の継続や研究時間の確保が困難となった研究者や高いレベルの研究を行っている将来有望な女性研究者を支援するもので、「研究支援員」の配置により、研究の継続と躍進を支援し、本学に於ける研究活動の活性化を図ることを目的としています。

中山寿子 先生

研究課題

発達期視床でのヒゲ経験依存的シナプス再編における神経活動の役割の解明

最終学歴

2004年3月 大阪大学大学院 基礎工学研究科博士課程

現職

東京女子医科大学 医学部 生理学(神経生理学分野)・助教

研究内容

環境から受ける感覚情報に対して適切な行動で応答するためには精巧な脳神経回路が必要で、それは発達期の経験に基づいて形成されます。私は、発達期の感覚経験依存的な神経回路の成熟と神経活動の関係性を研究しています。神経回路形成が上手くいかないと脳の情報処理に不具合が生じ、自閉症や統合失調症などにつながると考えられています。私たちの基礎研究の成果が臨床に繋がることを信じて今後も研究していきたいと思えます。

支援内容

マウスのメンテナンスから遺伝子型の確認、細胞培養実験と解析として免疫染色やウェスタンブロットを行っていただきました。

メッセージ

子供が中学生になって後回しにしがちだった家庭向けの時間的・精神的余裕ができました。支援員の小林さん、関係者の皆様、本制度への応募を勧めてくださった宮田教授に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



番場嘉子 先生

研究課題

大腸手術における人工知能AIおよびVirtual Reality VRを用いた手術ナビゲーション

最終学歴

東京女子医科大学大学院 第二外科学講座

現職

東京女子医科大学 消化器・一般外科 准講師

研究内容

医療分野の人工知能の将来性を認識し、2018年よりプログラミングスクールに通い勉強を始めました。データ処理が極めて重要でしたが、その整理に多くの時間を要しました。子供が小学生になり、より対話を必要としていましたが、早く帰れば研究が進まないということにジレンマを感じていました。

支援内容

手術画像などのデータを人工知能のサーバーに挿入しAIによる診断モデルの作成と検証

メッセージ

支援員の方には気の遠くなるような膨大な作業を毎日行って頂き、今や手術動画で何が映っているかの判断は外科医に劣らないと思えます。支援員の方にモデル作成から結果のまとめまでして頂いたお陰で、論文用の結果がすでに7本分あり、子供と机を並べて論文作成に動んでいます。心より感謝申し上げます。



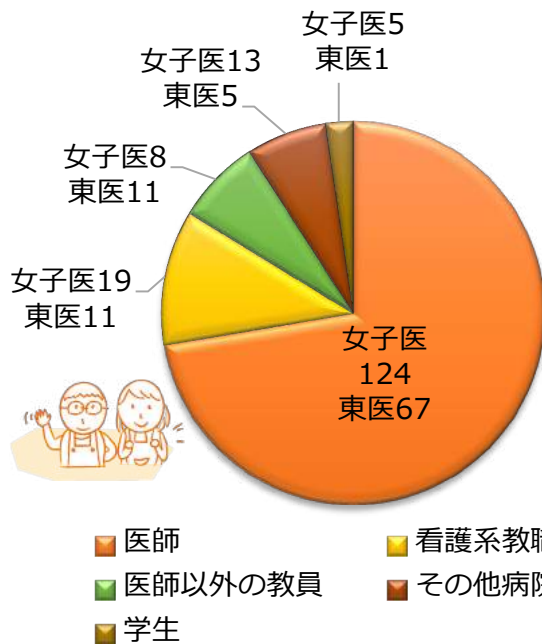
女性医師・研究者支援部門

女子医大・東京医大 ファミリーサポート

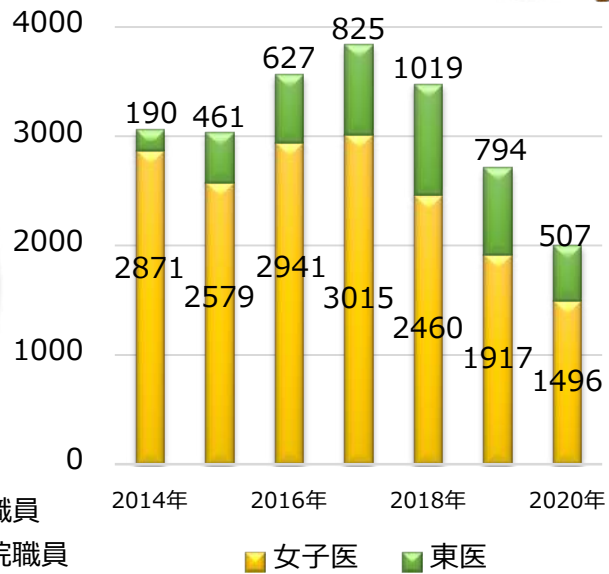
子育て支援を受けたい人（依頼会員）と
子育て支援をしたい人（提供会員）が会員登録をし、
コーディネーターが調整をする会員制の相互援助活動です



2020年度依頼会員264名の内訳



活動件数の推移



※女子医：女子医大、東医：東京医大

※2020年度はCovid-19感染拡大防止のため予定していた「**保育サービス講習会**」
「**スキルアップ研修会**」「**全体交流会**」を中止いたしました。



本学では院内保育所を設置し、教職員の勤務をサポートしています

(人事課管轄)

院内保育所



2020年度保育所利用者延べ人数表



令和2年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
昼間保育	111	102	131	106	94	118	131	83	109	110	92	106	1293
延長保育	0	3	19	5	5	2	3	2	1	8	6	9	63
夜間保育	5	5	5	7	5	5	6	3	4	0	2	2	49
休日保育	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4
病児保育	0	0	3	0	2	8	11	7	9	6	6	2	54

女性医師・研究者支援部門

女子中高生の理系進路選択支援プログラム

サイエンスカフェ 3/27 (土) オンライン開催

※3月末時点

学年	小6	中3	高1	高2	高3
参加人数	1名	1名	2名	5名	1名

14:00 開会のあいさつ

女性医療人キャリア形成センター・臨床検査科 佐藤麻子教授

14:05 司会より本日の流れを説明

第1部 講師によるミニレクチャー

14:10～ 岩崎直子先生 (成人医学センター)

14:25～ 柳沢直子先生 (微生物免疫学)

14:40～ 山内かづ代先生 (統合教育学修センター・医学教育学)

14:55～ 吉井亜希子先生 (国際環境熱帯医学)

休憩

第2部 グループに分かれてのフリートーク

15:20～

16:00 閉会のあいさつ



※本年度はCovid-19の影響で「サイエンスカフェ」のみをオンラインで開催をいたしました。
例年は6回のプログラムを開催しております。

公益財団法人日産財団 リカジョ賞 (現「リカジョ育成賞」)

第3回リカジョ賞奨励賞を受賞しました！！

テーマ：未来のいのちと健康を支えるのは「あなた」



女性医師再研修部門



相談者の出身大学を問わず、全国から復職相談を受け付けており、キャリアカウンセリングやオーダーメイドの研修を実施することで女性医師の復職支援活動を行っています。
(2021年6月現在、Covid-19感染拡大防止のため、病院での研修は中止しております)

研修・相談の流れ



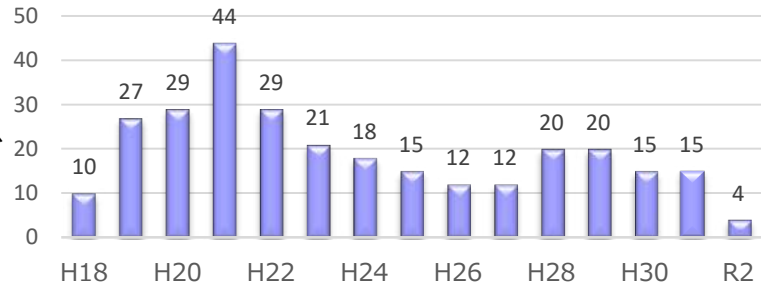
女性医師再研修部門

これまでの実績

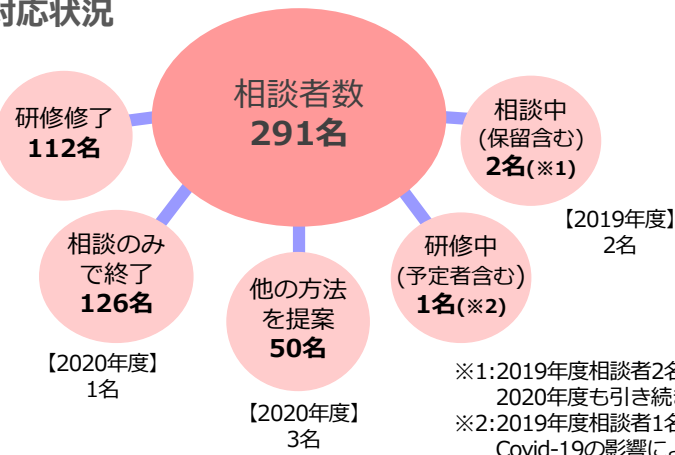
申請者状況

平成18(2006)年の設立以来、申請者は291名となりました。
内訳は実際に研修をされた方が112名、研修を行わず働き方などを提案・紹介した方が50名、同じく研修を行わず相談のみで修了された方が126名となります。

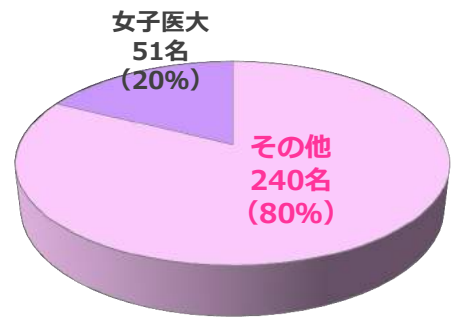
申請者数の推移



対応状況

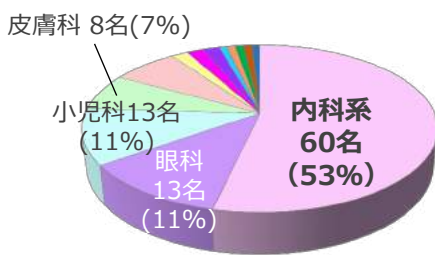


出身大学



※1:2019年度相談者2名。
2020年度も引き続き相談対応中。
※2:2019年度相談者1名。
Covid-19の影響により研修延期中。

研修先診療科の割合



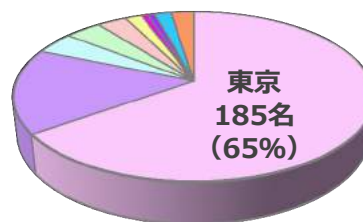
- 内科系 60名
- 眼科 13名
- 小児科 13名
- 女性外来・メンタルケア 8名
- 皮膚科 8名
- 産婦人科 3名
- 耳鼻咽喉科 2名
- 麻酔科 2名
- 整形外科 1名
- 神経精神科 1名
- 遺伝子医療センター 1名
- 膠原病リウマチ痛風センター 1名
- 病理学講座 病態神経科学分野 1名

相談者の約8割が本学以外をご卒業された先生です。

令和2(2020)年度はCovid-19の影響により研修は中止となりましたが、メールやzoomを活用し、復職やキャリア相談に対応しました。



お住いの地域



- 東京 185名
- 関東地方 46名
- 中部地方 12名
- 九州・沖縄地方 11名
- 近畿地方 9名
- 東北地方 5名
- 中国地方 2名
- 北海道 2名
- 海外 5名
- 不明 8名

女性医師再研修部門

【過去実績】 相談・研修後の状況調査

相談・研修後の状況調査アンケート

当部門に相談された方のその後を調査したアンケート結果です。
 現在は無職と回答した人が**0人**であり、当部門への相談が、現在の勤務につながったとの回答が**72%**、
 復職に役立つとの回答が**92%**となっていることから、再研修やキャリアカウンセリングなどの支援
 活動が女性医師の復職に果たす役割は大きいものといえる。
 ※有効回答総数35件(2019年5月～7月実施)

当部門に相談した時の勤務状況			回答時(2019年5月～7月)の勤務状況			勤務先		
勤務状況	人数	割合	勤務状況	人数	割合	勤務先	人数	割合
常勤	7名	20%	常勤	20名	57%	大学病院	5名	14%
非常勤	15名	43%	非常勤	15名	43%	病院 (200床以上)	9名	26%
休職中	4名	11%	休職中	0名		病院 (200床未満)	2名	6%
無職	9名	26%	無職	0名		診療所・ クリニック	16名	46%
	35名	100%		35名	100%	その他	3名	8%

その他・・・産業医2名、保健所1名

当部門への相談が現在の勤務につながったと思うか

勤務につながった?	人数	割合
つながったと思う	25名	72%
どちらともいえない	5名	14%
つながったと思わない	3名	8%
無回答	2名	6%

当部門は復職に役立つか

役立つか	人数	割合
非常に役立つ	17名	49%
役立つ	15名	43%
どちらともいえない	3名	8%
あまり役立たない	0名	
まったく役立たない	0名	

当部門の利点について (複数回答)

利点	人数	割合
相談のしやすさ	24名	25%
無料で利用できる	20名	21%
オーダーメイドによる多様な研修プログラム	19名	20%
復職に関する情報が得られる	15名	16%
出身大学を問わない	12名	12%
研修先と就職先が切り離されている(研修先≠就職先)	5名	5%
その他(自由記載)	1名	1%

女性医師再研修部門

相談・研修報告

2020年度はCovid-19の影響により、相談、研修ともに件数は大幅に減少いたしました。メールによる復職・キャリア相談の受け付けを継続し、zoomも活用しながら相談者へのアドバイスや今後の方向性に関する提案などを行いました。

相談者概要(2020年度)

	相談者	希望診療科	対応
1	40代後半、子供2人、離職中	救命救急	メールによる アドバイス および提案
2	40代前半、子供1人、非常勤勤務	内科、放射線科	Zoom面談による アドバイス および提案 ⇒ 今後の方向性決定
3	30代、子供1人、非常勤勤務	皮膚科	面談による アドバイス および提案 ⇒ 今後の方向性決定
4	40代後半、子供3人、離職中	総合内科	Zoom面談による アドバイス および提案 ⇒ 今後の方向性決定

過去実績(2019年度研修者概要、感想文) ※抜粋

40代・子供2人
・非常勤勤務(婦人科・内科)

研修先：本学成人医学センター
期間：2019年8月20日～2019年11月15日

面談では、私の不安を聞いていただき、私に必要な研修を導いてくださり、週1回の外来見学という形で研修を行いました。成人医学センターでは、さまざまな科で先生方の外来診療を見学し、診断・治療について勉強させていただきました。先生方には外来でお忙しい中質問にも丁寧に答えてくださり、最近の知見なども教えていただき、疑問に思っていたことが研修を受けるごとに解消されていき、自信につながりました。また、先生方の患者さんとのコミュニケーションの取り方を拝見し、信頼される医療の大切さを改めて感じました。

50代・子供なし
・米国大学Associate Professor

研修先：本院総合診療科
期間：2019年7月11日～2019年8月10日

総合診療科では女性医師再研修プログラムで研修を積まれた先生方々ともお話しする機会があり、それぞれ異なる理由で臨床の場を離れた後に復帰を後押ししているこのプログラムの意義を改めて認識いたしました。私は東京女子医大出身でもありませんし、こちらに再就職するのでもありませんのに、社会への還元というこのプロジェクトの恩恵を感じざるを得ません。今後、個々のニーズに合うフレキシブルなこのプログラムの意義はさらに高くなるのではないのでしょうか。

看護職キャリア開発支援部門

*Sincerity and
Compassion.*

看護職キャリア開発支援部門では
看護師が充実した仕事と生活をおくることができるよう、
あらゆるプロジェクトでサポートします

看護職のキャリア開発と勤務継続を支援するために、看護部、看護学部、看護専門学校が協働して、看護職のキャリア支援システムの構築を目指して5つのプロジェクトで活動しています。院内教育や各種委員会活動と連携しながら看護職者のニーズをキャッチし、一人ひとりの看護職者が生涯成長し続けるために役立つ内容を盛り込んだ活動をおこなっています。

キャリア・メンタルヘルス相談プロジェクト

キャリアカウンセリング

キャリアカウンセラーがキャリア上の問題を一緒に考えたり、キャリア開発の支援を行っています。

メンタルヘルスカウンセリング

本人のみならず、不調者を支える側のカウンセリングも実施しています。

令和2(2020)年度実績

- ◆キャリアカウンセリング申込数 13件
- ◆メンタルヘルスカウンセリング 320名(1,130回)
- ◆メンタルヘルスの不調な看護師を支援する看護職者の相談 320名(367回)



自己学習支援プロジェクト

看護専門領域スキルアップ研修

専門領域における知識や技術を深め、日々の看護実践能力を向上します。

Covid-19の影響により中止となった研修もありましたが、密を避け工夫することで18研修を実施し、のべ252名が参加しました。令和3(2021)年度はzoomやYouTubeを活用して研修を実施します。

令和2(2020)年度実績

- ◆全10領域、18研修を実施
- ◆年間のべ252名が研修参加



看護職キャリア開発支援部門

※ページ内の写真はいずれも2019年度に撮影

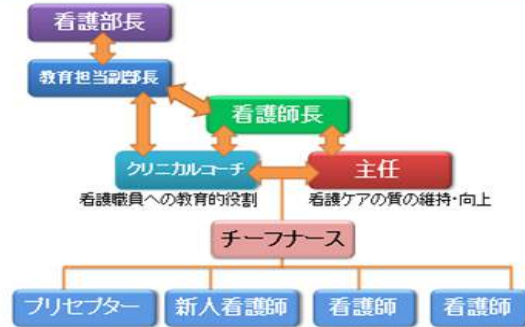
変革推進力育成プロジェクト

クリニカルコーチ育成研修

クリニカルコーチは、部署において看護師長や主任と連携しながら教育的役割を担い、看護職や看護学生を支援しています。



クリニカルコーチの位置づけ



令和3(2021)年度予定

- ◆2019年度に第7期生(15名)が認定され、累計131名のクリニカルコーチを輩出
- ◆2021年度は第8期生の研修を予定

師長の変革推進能力向上支援

看護師長のキャリアアップと変革推進力を高めるための支援を行っています。



令和2(2020)年度実績

- ◆2019年度に実施した研修参加者の現状調査を実施
- ◆調査結果を踏まえた研修を2021年度に実施予定

看護研究推進プロジェクト

看護部門と看護基礎教育機関(看護学部・看護専門学校)による研究活動の連携を推進し、看護の実践、教育、研究の質の向上を図っています。

看護管理者(師長に限定しない)を対象としたセミナー・ワークショップ開催

Covid-19の影響によりワークショップは中止となったが、学会交流集会開催のアドバイス2件、2019年度事例研究セミナー受講者の学会発表2件の支援を行った。



「研究支援者ピアサポートの会」開催

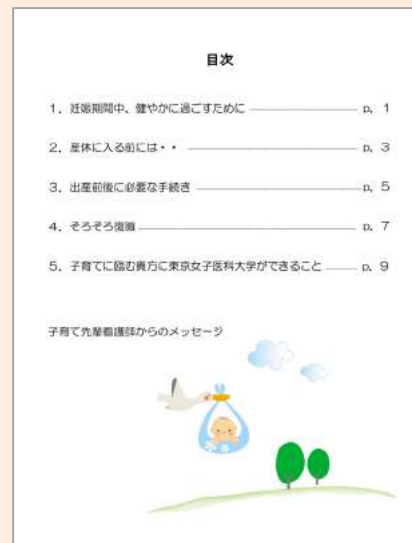
2020年度は3回実施。参加者からは「研究活動の後押しになる」「研究意欲が出る」「共同研究したい」などの声があり、支援者のサポートの場となっている。

看護職キャリア開発支援部門

はたらき方支援プロジェクト

ライフイベント支援

妊娠・出産という女性にとって大きなライフイベントを迎えた方を対象に、ガイドブック「新しい家族を迎えるにあたって～ワーキングママ&パパを応援する本～」を配布しています。学内での様々な制度や手続き、また先輩子育て看護師からのメッセージも掲載されています。



キャリア支援制度

休職をしないで育児、進学・介護と日常の看護業務を両立できる制度や、国外研修のための休職制度、さらにキャリアアップのための「在籍したまま進学できる制度」を設けています。

① 看護職キャリア
継続支援のための
短時間勤務

休職はせずに
「育児」「介護」
「進学」等をしたい！
日常の看護業務と
両立したい！

② 看護職
国外研修休職

海外語学・看護研修、
ワーキングホリデーで
キャリアアップしたい！

③ 看護職進学休職

在籍したまま進学したい！
業務に必要な資格取得や
看護知識・技術の
ブラッシュアップをしたい！

看護職キャリア開発支援部門

※ページ内の写真はいずれも2019年度に撮影

認定看護管理者教育課程ファーストレベル

「認定看護管理者」とは

日本看護協会が主催している
看護管理者研修としては
現時点で唯一の系統的な研修

- 日本看護協会が推奨
- ◆看護主任はファーストレベル
 - ◆看護師長はセカンドレベル
 - ◆看護副部長・部長はサードレベル

本学は
「認定看護管理者教育課程ファーストレベル」
の教育機関として日本看護協会より認定



令和4(2022)年度開講に向けて

Covid-19の影響により、2020年度および2021年度は残念ながら休講となりました。

研修風景

講義



グループワークで検討、まとめ、発表



第40回日本看護科学学会学術集会 交流集会

臨床と教育のコラボレーションによる看護職のキャリアの支援 ～これまでの10年に続くこれからの10年に向けて～

当部門で10年にわたり実施してきた本学の看護部と看護学部による相互連携の取り組みについて話題提供し、コラボレーション実現に必要なこと、さらに未来に向けた臨床と教育の発展的なコラボレーションについて、参加者も交えてディスカッションを行いました。
(オンデマンド配信、ライブ配信)

参加者の声

- 同じ目的を持ってコラボレーションすることで何倍もの力になることを感じた。
- これまでの経過や背景も知ることができ、参考になった。



ダイバーシティ環境整備事業推進室



平成28年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)」に採択されました。

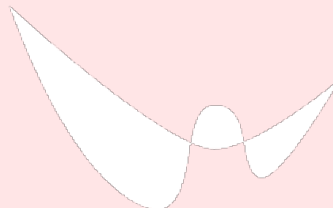
各部門と連携し、3つの柱を基盤として様々な取り組みを行っています。

テーマ	上位職への積極登用	研究力向上 リーダー育成	ダイバーシティ 研究環境整備
アウトカム	教授 特命含 30% 准教授 特命含 35% 講師 40%	科研費等応募数 30%増 科研費等採択数 20%増 原著論文等 10%増	研究者の満足度向上 学生サポーター育成 介護支援制度の利用開始
プロセス	①プラスファクター方式導入 ②特命担当教授新設 ③教員評価制度見直し ④所属長意識改革	①メディアラボ運営 ②ピアラーニング実施 ③キャリア形成個別支援 ④各種セミナー・講演会 ⑤研究支援員制度	①勤務環境改善 ②育児支援発展 ③介護支援創設
ストラクチャー	ダイバーシティ環境整備事業推進室		
	学長・副学長 理事長・センター長会議 学部長会議、リーダー育成部門	女性医療人リーダー育成 部門(旧彌生塾) 図書館	女性医師研究者 支援部門、病院

【女性活躍推進法】
一般事業主行動計画

目標1：女性教授比率 30%の達成と維持
 目標2：介護支援制度利用者比率 0.6%の達成

(計画期間 2020年4月1日～2025年3月31日)



ダイバーシティ環境整備事業推進室

大分類	項目	平成28 (2016)年度	平成29 (2017)年度	平成30 (2018)年度	令和1 (2019)年度	令和2 (2020)年度
上位職登用	プラスファクター	→				
	特命担当教授	→				
	規程作成・承認	→				
	任命	→				
	女性科開設 (現：女性センター)	→				
	教員評価見直し	→				
	評価項目作成・修正	→				
	システム導入・試行	→				
	ダイバーシティ講習会	→				
	研究力向上	キャリア形成の個別支援	→			
講演会・セミナー		→				
ピアラーニング		→				
情報交換会		→				
教授との座談会		→				
eラーニング配信		→				
研究支援員制度		→				
勤務環境改善	勤務環境改善	→				
	事務効率化	→				
	医局座談会	→				
	育児支援	→				
	学生センター講習会	→				
	院内保育所連携	→				
	介護支援	→				
	パンフレット作成・配布	→				
相談窓口	→					

全国ダイバーシティネットワークへの参加

平成30(2018)年度より全国ダイバーシティネットワーク組織に東京ブロックとして参加することで、様々な情報発信を行っています。また令和2(2020)年12月には、「女性研究者活躍促進に向けた環境整備等に取り組む機関」として認定証が交付されました。



ダイバーシティ環境整備事業推進室

上位職への積極登用

教授就任

女性医療人リーダー育成部門やダイバーシティ環境整備事業推進室の取り組みもあり、令和2(2020)年度は新たに4名の女性教授が誕生し、令和2(2020)年7月には女性教授率31.1%を達成しました。

特命担当教授の任命

女性教員の上昇志向をさらに高め、上位職登用候補者であることを学内外に示すために特命担当教授を任命しています。

教員評価制度見直し

女性リーダー育成やダイバーシティ事業への協力度を評価項目に取り入れるため、評価制度の見直しを行っています。

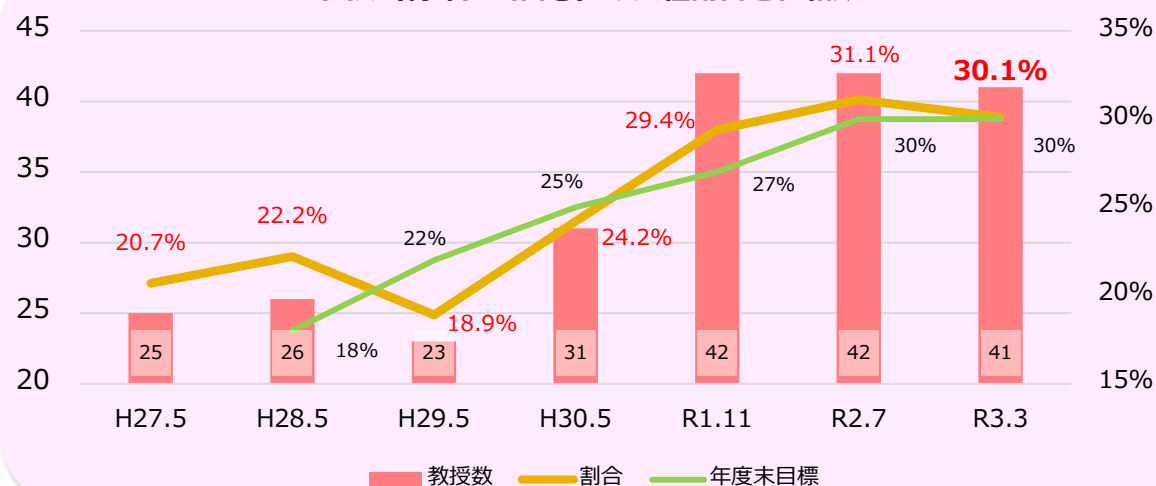
FDの実施

女性上位職登用に対する意識改革を促す目的で教授を対象にセミナーを実施しています。

各年度の教授在籍数と女性教授割合

	女性教授割合	女性教授数	男性教授数	合計
平成27(2015)年5月	20.7%	25	96	121
平成28(2016)年5月	22.2%	26	91	117
平成29(2017)年5月	18.9%	23	99	122
平成30(2018)年5月	24.2%	31	97	128
令和1(2019)年11月	29.4%	42	101	143
令和2(2020)年07月	31.1%	42	93	135
令和3(2021)年3月	30.1%	41	95	136

教授（特命担当含む）の女性割合と在籍数



ダイバーシティ環境整備事業推進室

研究力の向上

eラーニングコンテンツの作成

- ①「2020ダイバーシティ環境整備事業報告」本多 祥子氏(ダイバーシティ環境整備事業推進室 室長)
- ②「有害事象から学ぶーQuick SAFER分析手法ー」加藤 多津子氏(衛生学公衆衛生学 特命担当教授)
宮崎 歌津枝氏(医療対話推進室 看護師長)

研究支援員制度（女性医師・研究者支援部門） → P.12

各種セミナー・講演会・ピアラーニング（女性医療人リーダー育成部門） → P.8～10

勤務環境の改善

女性研究者が在籍する部局の勤務環境の改善

平成29(2017)年度から各科の医局単位で個別に勤務環境改善施策を実施しています。

令和2(2020)年度は、整形外科と神経精神科を対象とし、改善取組に対して推進室が適宜支援を行っています。

	診療科	参加医師メンバー	実施したプロジェクト
H29	脳神経内科	女性 4名	退院時サマリの作成を効率化し 研修医、指導医双方の負担軽減
	乳腺 内分泌外科	男性 1名 女性 4名	人材育成のガイドライン作成、 互いを尊重しチームで動ける組織風土の醸成
H30	眼科	男性 2名 女性 4名	外来診療効率化・年次有給休暇の自由取得・ 土曜外来診療の負担軽減
	形成外科	女性 4名	外来・病棟・手術・医局業務マニュアル作成、 導入による若手医師指導の効率化
R1	皮膚科	男性 2名 女性 4名	医師の昼休憩時間確保に向けた取り組み
	(救急医学)	男性 1名 +α	(スマートフォン等で閲覧できる初期研修医向け マニュアル作成に向けた取り組み)
R2	整形外科	男性 1名 女性 2名	COVID-19感染拡大下での 新入医局員勧誘方法の検討
	神経精神科	男性 1名 女性 4名	COVID-19感染防止のための勤務環境整備

介護支援制度

介護に関するニーズ調査の為、本学全教職員を対象に平成28(2016)年度・令和1(2019)年度にWebアンケートを実施した結果、仕事と介護の両立を望む声が回答者の75.5%を占める現状が明らかになりました。現在は「介護相談窓口」を設置し、本学教職員のための介護相談を受け付けています。また来年度以降、新たな介護支援の策定を予定しています。

育児支援の充実（女性医師・研究者支援部門） → P.13

活動報告

リ・・・女性医療人リーダー育成部門(旧彌生塾)
 支・・・女性医師・研究者支援部門 再・・・女性医師再研修部門
 看・・・看護職キャリア開発支援部門
 ダ・・・ダイバーシティ環境整備事業推進室

日付	内容	リ	支	再	看	ダ
4月1日	「彌生塾」から「女性医療人リーダー育成部門」に名称変更	★				
	2020年度研究支援員制度開始		★			★
	介護支援プロジェクト発足					★
4月6日	英語セミナー「論文の執筆からジャーナル投稿」提供(オンライン)	★				★
4月21日	ファミリーサポート調整会議		★			
4月27日	第43回ダイバーシティ担当推進者会議	★	★	★	★	★
	女性医療人リーダー育成部門運営委員会	★				
5月1日	ファミサポ通信第25号発行		★			
5月18日	英語セミナー作業部会	★				★
5月19日	ファミリーサポート調整会議		★			
5月25日	第44回ダイバーシティ担当推進者会議	★	★	★	★	★
6月1日	介護支援プロジェクト会議					★
6月9日	「リカジョ賞」奨励賞受賞					★
6月12日	面談・セミナー作業部会	★				
6月13日	女性医師・研究者支援部門シンポジウム2020 ビデオ録画		★			
6月19日	研究力向上セミナー作業部会	★				
6月23日	看護職キャリア開発支援部門運営委員会				★	
	ファミリーサポート調整会議		★			
6月29日	第45回ダイバーシティ担当推進者会議	★	★	★	★	★
7月27日	第46回ダイバーシティ担当推進者会議	★	★	★	★	★
8月4日	ファミリーサポート調整会議		★			

活動報告

リ・・・女性医療人リーダー育成部門(旧彌生塾)
支・・・女性医師・研究者支援部門 再・・・女性医師再研修部門
看・・・看護職キャリア開発支援部門
ダ・・・ダイバーシティ環境整備事業推進室

日付	内容	リ	支	再	看	ダ
8月24日	女性医療人リーダー育成部門運営委員会	★				
8月28日	第47回ダイバーシティ担当推進者会議	★	★	★	★	★
9月4日	研究力向上セミナー「科学研究費申請説明会」DVD貸出開始 (東京女子医科大学 実験動物研究所 教授 本田浩章先生)	★				★
9月9日	第28回女性医師・研究者支援部門運営委員会		★			
9月15日	ファミリーサポート調整会議		★			
9月28日	第48回ダイバーシティ担当推進者会議	★	★	★	★	★
10月1日	「2021年度研究支援員制度」募集開始		★			
10月6日	ファミリーサポート調整会議		★			
10月26日	第49回ダイバーシティ担当推進者会議	★	★	★	★	★
10月30日	第14回ピアラーニング	★				★
11月10日	ファミリーサポート調整会議・運営委員会		★			
11月16日	英語セミナー (カクタス・コミュニケーションズ株式会社 David Kipler先生)	★				★
11月30日	第50回ダイバーシティ担当推進者会議	★	★	★	★	★
12月11日	研究力向上セミナー「臨床研究初学者のための統計の基本 ～医療系データの分析入門編～2020」DVD貸出開始	★				★
12月15日	ファミリーサポート調整会議		★			
12月18日	看護職キャリア開発支援部門運営委員会				★	
12月22日	第16回認定看護管理者教育課程ファーストレベル教育運営委員会				★	
12月23日	リーダーシップセミナー:看護職キャリア開発支援部門共催 「コロナ禍におけるコミュニケーションのあり方～上司と部下の コミュニケーションスキル～」開催 (福島県立医科大学 放射線医学県民健康管理センター 特任教授 八木亜紀子先生)	★				★
12月25日	第51回ダイバーシティ担当推進者会議	★	★	★	★	★
	奈良女子大学 ファミリーサポート室 オンライン視察		★			

活動報告

リ・・・女性医療人リーダー育成部門(旧彌生塾)
 支・・・女性医師・研究者支援部門 再・・・女性医師再研修部門
 看・・・看護職キャリア開発支援部門
 ダ・・・ダイバーシティ環境整備事業推進室

日付	内容	リ	支	再	看	ダ
1月19日	ファミリーサポート調整会議		★			
1月26日	第52回ダイバーシティ担当推進者会議	★	★	★	★	★
	「2021年度研究支援員制度」審査会開催		★			
2月1日	ファミサポ通信第26号発行		★			
2月3日	英語セミナー「英語プレゼンのためのワークショップ」開催	★				★
2月12日	第29回女性医師・研究者支援部門運営委員会		★			
2月16日	看護職キャリア開発支援部門運営委員会				★	
2月22日	第53回ダイバーシティ担当推進者会議	★	★	★	★	★
3月2日	ファミリーサポート調整会議		★			
3月8日	2020年度研究支援員 部門長訪問		★			
3月12日	女性医師再研修部門運営委員会			★		
	研究力向上セミナー作業部会	★				★
3月15日	英語セミナー作業部会	★				
3月16日	面談・セミナー作業部会	★				
3月18日	女性医療人リーダー育成部門運営委員会	★				
3月22日	第4回e-ラーニングプロジェクトチーム会議	★	★	★	★	★
	第54回ダイバーシティ担当推進者会議	★	★	★	★	★
3月23日	看護職キャリア開発支援部門運営委員会				★	
3月24日	第16回女性医療人キャリア形成センター運営委員会	★	★	★	★	★
3月31日	兵庫医科大学 ファミリーサポート室 オンライン視察		★			

業績一覧

【支援を受けた女性医師・研究者の業績一覧です】

学会発表

演者	形式	区分	研究会・学会名	タイトル	開催場所	年月日
堀沙耶香,三谷昌平	一般公演	ポスター	第92回日本動物学会 大会	OFF-responding interneurons control stimulus strength-dependent sensory processing	オンライン会議	20.9.4-5
田中紀奈	招待講演	口頭発表	女性医師・研究者支援シンポジウム 2019	本邦の血液疾患における意義の検討	オンライン開催	20.6.13
田中紀奈,小林美津子,王艶華,志関雅幸,田中淳司	一般公演	口頭発表	第82回日本血液学会学術集会	骨髄異形成症候群におけるKIR遺伝子多型の臨床的意義	オンライン会議	20.10.10
田中紀奈,進藤理穂,篠原明仁,加藤豊,糸井寛,竜崎理子,飯塚有希,渡邊彩,石山みどり,萩原将太郎,吉永健太郎,志関雅幸,田中淳司	一般公演	口頭発表	第43回日本造血細胞移植学会総会	造血幹細胞移植における移植前の尿中 L-FABP 値の意義	オンライン会議	2021/3/6
番場嘉子,小川真平,相原永子,谷公孝,中川了輔,腰野蔵人,大木岳志,井上雄志,岡本高広,亀岡信悟,板橋道朗,山本雅一	第120特別企画	口演	第120回日本外科学会	AIがもたらす外科医の未来像AIを用いた大腸癌手術における手術動画解析	オンライン開催	20.8.13-15
番場嘉子,小川真平,相原永子,谷公孝,中川了輔,腰野蔵人,大木岳志,井上雄志,岡本高広,亀岡信悟,板橋道朗,山本雅一	ワークショップ	口演	第82回日本臨床外科学会	大腸癌におけるAIナビゲーション外科手術	オンライン開催	20.10.29
番場嘉子,松尾夏来,芹沢朗子,大森亜紀子,谷公孝,中川了輔,腰野蔵人,大木岳志,小川真平,井上雄志,板橋道朗,山本雅一	シンポジウム	口演	第18回日本ヘルニア学会	私の考える女性外科医の働き方	オンライン開催	20.11.3-4
番場嘉子,小川真平,相原永子,谷公孝,中川了輔,腰野蔵人,大木岳志,井上雄志,岡本高広,亀岡信悟,板橋道朗,山本雅一	シンポジウム	口演	第75回日本大腸肛門病学会	大腸癌治療におけるAIを用いた画像・動画診断支援システム	オンライン開催	20.11.13-14
番場嘉子,小川真平,相原永子,谷公孝,中川了輔,腰野蔵人,大木岳志,井上雄志,岡本高広,亀岡信悟,板橋道朗,山本雅一	一般口演	口演	第75回日本消化器外科学会	AIによる消化器外科治療のイノベーション	オンライン開催	20.12.15-17

業績一覽

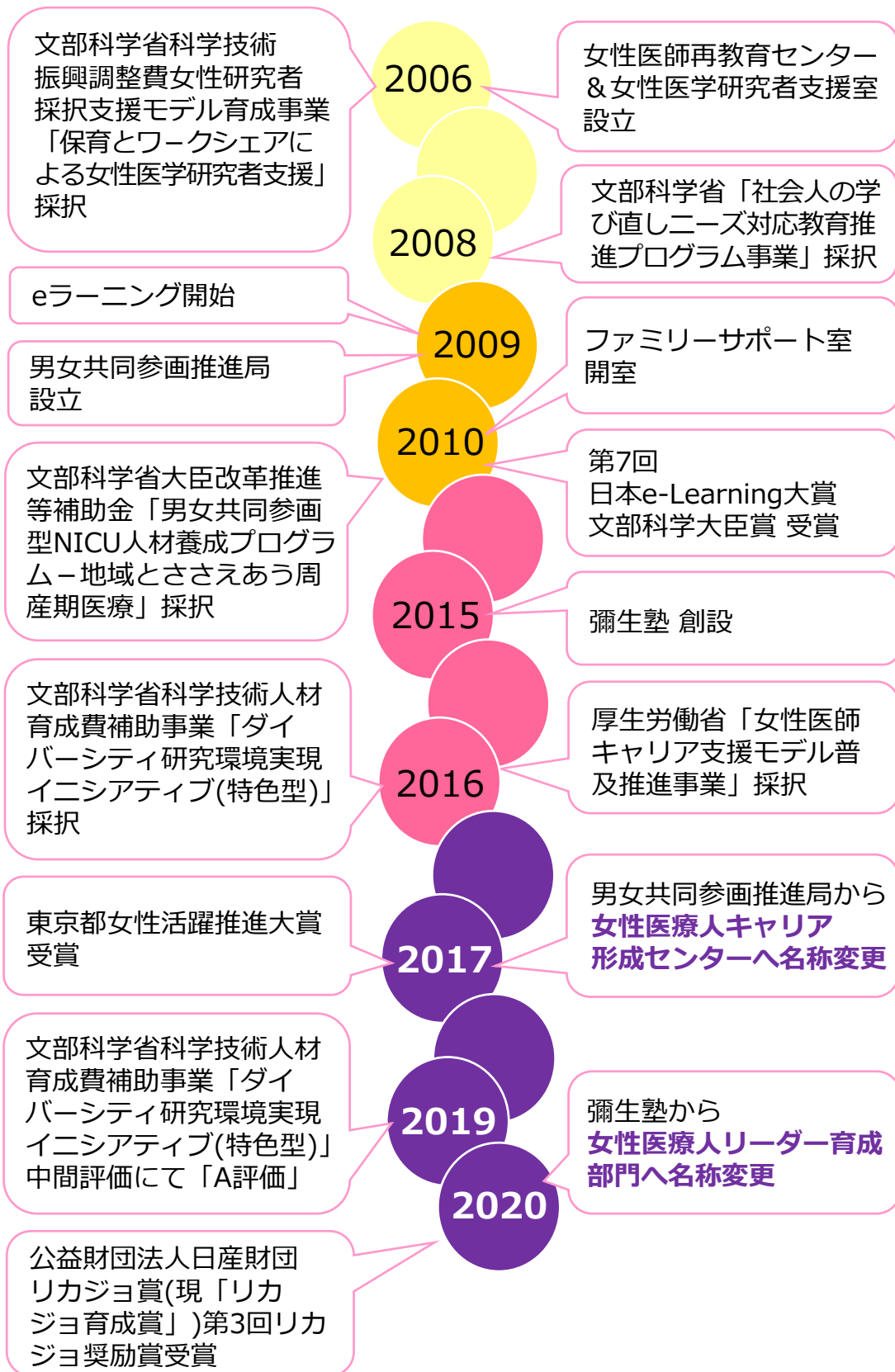
論文

著者名	タイトル	誌名
Junji Tanaka, <u>Norina Tanaka</u> , Yan-Hua Wang, Kenjiro Mitsuhashi, Michiko Ryuzaki, Yuki Iizuka, Aya Watanabe, Midori Ishiyama, Akihito Shinohara, Hiroshi Kazama, Shotaro Hagiwara, Kentaro Yoshinaga, Yumi Kougen, Hirohito, Kobayashi, Hitoshi Kanno, Masayuki Shiseki	Phase I study of cellular therapy using ex vivo expanded natural killer cells from autologous peripheral blood mononuclear cells combined with ituximab-containing chemotherapy for relapsed CD20-positive malignant lymphoma patients	Haematologica. 2020 Apr;105(4):e190-e193.
Mariko Ishibashi, Risa Takahashi, Asako Tsubota, Makoto Sasaki, Hiroshi Handa, Yoichi Imai, <u>Norina Tanaka</u> , Yutaka Tsukune, Sakae Tanosaki, Shigeki Ito, Toshio Asayama, Mika Sunakawa, Yuta Kaito, Yasuko Kuribayashi-Hamada, Asaka Onodera, Keiichi Moriya, Norio Komatsu, Junji Tanaka, Takeshi Odajima, Hiroki Sugimori, Koiti Inokuchi, Hideto Tamura	SLAMF3-Mediated Signaling via ERK Pathway Activation Promotes Aggressive Phenotypic Behaviors in Multiple Myeloma	Mol Cancer Res. 2020 Apr;18(4):632-643.
Nagumo Y, Ueta Y, <u>Nakayama H</u> , Osaki H, Takeuchi Y, Uesaka N, Kano M, Miyata M.	Tonic GABAergic Inhibition Is Essential for Nerve Injury-Induced Afferent Remodeling in the Somatosensory Thalamus and Ectopic Sensations	Cell Reports. 2020 Jun 23;31(12):107797. doi:10.1016/j.celrep.2020.107797
番場嘉子, 小川真平, 板橋道朗, 山本雅一	特集AIとロボット手術 手術用ナビゲーションシステム AIナビゲーション外科手術	JOHNS 2020 Vol.36 No12, 1615-1618
<u>Tanaka Norina</u> , Imai Yoichi, Yoshinaga Kentaro, Shiseki Masayuki, Tanaka Junji	Fractionated ifosfamide, carboplatin, and etoposide with rituximab as a safe and effective treatment for relapsed/refractory diffuse large B cell lymphoma with severe comorbidities.	Annals of hematology. 2020 Nov;99(11):2577-2586.

その他

氏名	機関	名称
<u>Yoshiko Bamba</u> , Michio Itabashi	Applications of FDG PET in Oncology	Positron Emission Tomography/Computed Tomography in Colorectal Cancer
番場嘉子	日本外科学会	第120回日本外科学会定期学術集会 ライブ部門 高視聴率賞 2020.10.31

女性医療人キャリア形成センターのあゆみ



女性医療人キャリア形成センター基金

女性医療人の勤務継続支援および医療人としてのキャリア形成とリーダーシップ育成を行う目的として実施しております女性医療人キャリア形成センター基金につきましては、多大なるご支援、ご協力を賜りましたことを心より感謝申し上げます。

これからの社会において多くの女性医療人たちが活躍できるよう、深いご理解とご関心をお寄せくださる皆様から賜りましたご芳志を深謝するとともに重ねて心からお礼申し上げます。

● **ご寄付合計額** 2,110,000円 (2020年度)

● **ご芳名一覧 (五十音順)** 瀧 和起 様 肥塚 直美 様 匿名2名

申込方法、振込方法、免税措置（企業等法人、個人）など、寄付に関する詳細につきましては裏表紙に記載のセンター事務局までお問い合わせくださいますようお願い申し上げます。

こちらからも詳細をご欄いただけます ⇒



女性医療人キャリア形成センター
Annual Report 2020

発行 令和3(2021)年7月
編集 女性医療人キャリア形成センター
MAIL cdc_bm@twmu.ac.jp
URL <http://www.twmu.ac.jp/gender/>



東京女子医科大学
女性医療人キャリア形成センター

〒162-8666 東京都新宿区河田町8-1
TEL:03-3353-8112(内線 30165, 30166) FAX:03-3353-6793
MAIL:cdc.bm@twmu.ac.jp